



# 西郷小だより

第12号 令和5年3月29日

文責：校長 延沢 教之

## 村山市の人が本を好きになってほしい

### ～5年生による市立図書館への本の寄贈～

3月9日、5年生が市立図書館へ本を寄贈しました。これは、総合的な学習の一環で米を育て、保護者に販売した収益金で購入したものです。販売の様子は第9号でもお伝えしたとおりです。

例年、収穫した米は自分たちで味わっていましたが、今年度は活動を他にも広げたいと考え、「す米いる」(スマイル)と名付け、販売を行いました。

次に収益金をどう使うか自分たちで考えました。かなり時間をかけて考えていたようです。教師が口出ししたくなることを我慢して、児童たちに考えさせていました。そこにも価値があると思います。

結果、半分を学校に、半分を市に寄付することに決めました。市への寄付は、初めはお金を送ってそのお金で本を買ってもらうというものでしたが、市立図書館に相談したところ、「とてもありがたいお話です。自分たちで選んだ本を贈ってください。」と快諾していただきました。さらに、「選んだ理由を書いたカードを添えたら。」とすばらしいアイデアをいただきました。5年児童は、「教育長さんに『本を贈ろうと考えたことは本当にすばらしい。』と言ってもらえてうれしかった。私たちが贈った本を読んで、村山市の人が本を好きになってほしい。」と語ってくれました。



## 10年の積み重ね ～塩竈市への義援金～



3月8日、全校生を代表して環境委員会の矢萩悠埜くんと高橋優良さんが、塩竈市への義援金を志布市長に渡してきました。このお金は、環境委員会の児童が毎週金曜日プルタブやアルミ缶を回収して得ているものです。地域の方からもご協力いただきました。ありがとうございます。この取り組みは、東日本大震災からの復興に役立ててもらうために平成26年度から塩竈市に送り、今年で10回目になりました。この時

の様子は、3月7日付山形新聞にも掲載されました。これからも、震災の記憶をときれさせることなく、できることをつづけていきたいと考えています。

## どうしたら学校がもっと楽しくなるか ～全校道徳～

3月1日、「どうしたら西郷小学校がもっと楽しい学校になるか」をテーマに、たてわり班ごとに話し合いました。出された意見をいくつか紹介します。

- ・1週間全部ロング昼休みにする。
- ・ほめほめカードを全校でやる。
- ・宿題を減らす。 ・生き物を増やす。
- ・図書の本を増やす。 ・先生を増やす。
- ・校外学習を増やす。
- ・ダンス大会やサスケなどのイベントをする。
- ・みんなで笑う。
- ・あいさつをたくさんする。

など、なるほどなと思えることを子どもなりに考えていることが分かりました。

私から、「楽しくするには、今自分たちでできることに加えて、努力してできるようになることは何かを自分たちで考えて実行することが大切です。全校道徳をはじめたころに比べると、1年生から6年生までがみんな活発に意見を出していました。今日のように何でも言い合える雰囲気を作っていくことも、楽しい学校につながります」と伝えました。



## 来年度も西郷小学校をよろしくお願ひいたします。

今年度1年間、地域の皆様、保護者の皆様にはたいへんお世話になりました。様々な活動を行うにあたって、ご理解とご協力をいただいたおかげで、コロナ禍にあっても子どもたちの学びを止めることなく、活動を行えたことに深く感謝申し上げます。

特に今年度、地域の方による読み聞かせを復活させ、11回もの読み聞かせをすることができました。また、地域の方を講師にお招きし「地域探検クラブ」を立ち上げ、西郷地域のよさを再発見することができました。

一方で、コロナの影響でやむなく中止にした行事や人数制限などがありました。学校に行くのを楽しみにしていたのに残念な思いをされた方も多数おられたことでしょう。その思いにこたえるべく、学校を1日開放する「にしごうスマイルデー」を来年度必ずや実施し、より皆様と関わる活動を展開してまいります。

来年度も地域の皆様、保護者の皆様と共に学び、共に育つ西郷小学校をめざしてまいります。行きたい時にはいつでも誰でも行ける、そんな学校にしたいと考えています。それが実現できるように、コロナの収束を願うばかりです。

